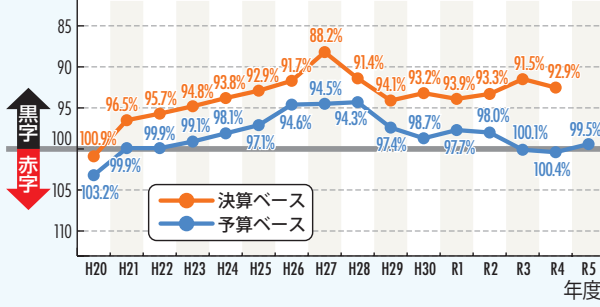


経常収支のバランス 経常収支比率 92.9%(+1.4ポイント)

公債費(借入金の返済)の増加や光熱費の高騰による物件費の増加などにより、前年度から1.4ポイント悪化しました。

家計に例えると、「毎月の給料で、毎月の生活費が賄えているか?」を示しています(経常収支比率が100%を超えると、家計では赤字の状態です)。

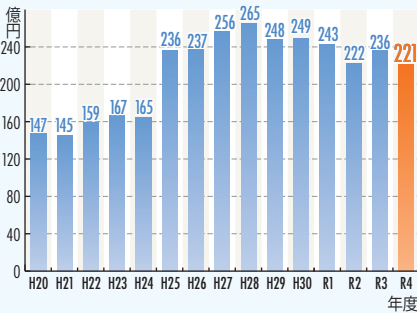


基金の状況 基金残高(普通会計)

221億3800万円(-14億7100万円、-6.2%)

今後の財政需要に備え、学校教育施設整備基金や保健福祉総合推進基金などを積み立てた一方、北急延伸整備事業債の繰り上げ償還のために基金を活用した結果、基金残高は約15億円減少しました。

家計に例えると「貯金」です。

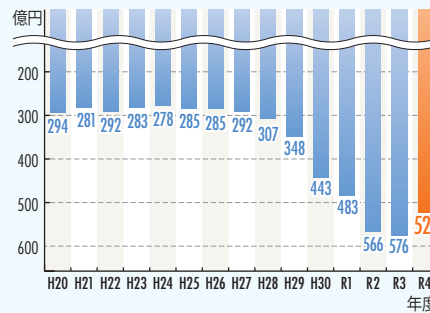


市債の状況 市債残高(普通会計)

520億7000万円(-55億600万円、-9.6%)

着実に返済を進めるとともに、北急延伸整備事業債の繰り上げ償還を実施したことにより、市債残高は約55億円減少しました。

家計に例えると「ローン」です。



箕面市の財政公表

図財政経営室
☎724・6708 FAX723・2096

令和4(2022)年度決算は、9月5日から10月16日まで開かれた市議会定例会で審議の結果、適正であると認定を受けました。

令和4年度決算では、公債費や光熱費を始めとした物件費の増加などの影響で経常収支比率が悪化しています。健全化判断比率は4指標全てにおいて良好な水準ですが、市債残高が依然として多いことにより将来負担比率が3年連続でプラスの値になるなど、引き続き動向を注視する必要があります。

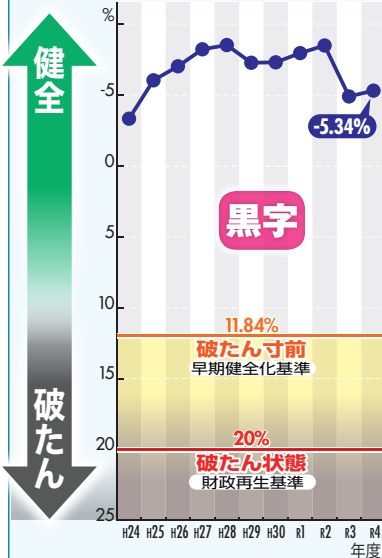
健全化判断比率の状況

市の財政が健全かどうかを表す指標です。令和4年度決算は、4指標全てにおいて良好な水準ですが、引き続き動向を注視していきます。

実質赤字比率

市税(個人市民税や固定資産税など)の増加や、新駅周辺整備の事業費減少などにより、0.41ポイント改善しました。

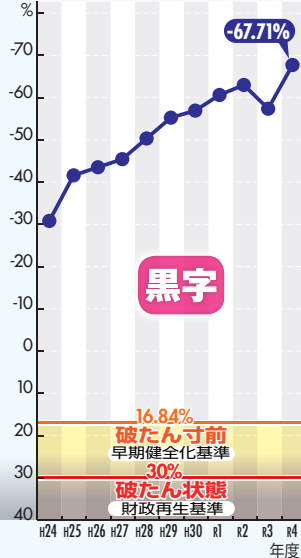
家計に例えると、「年収に対する赤字の割合」を示しています。



連結実質赤字比率

一般会計における市税増加や、各公営企業会計における資金余剰の拡大などにより、10.34ポイント改善しました。

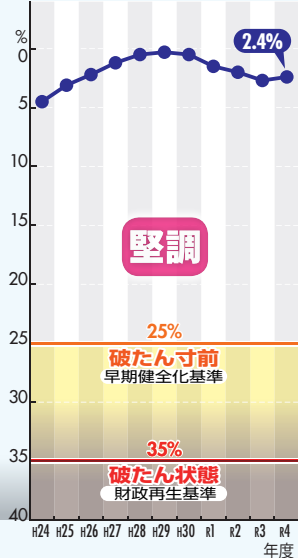
家計に例えると、「同居している家族全員の年収総額に対する赤字総額の割合」を示しています。



実質公債費比率

北大阪急行線延伸整備に係る市債の繰り上げ償還などにより、0.3ポイント改善しました。

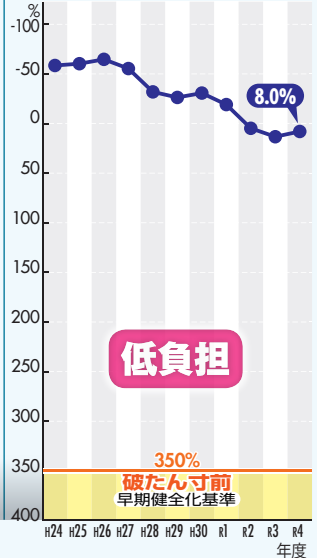
家計に例えると、「年収に対するその年のローン返済額の割合」を示しています。



将来負担比率

市債の繰り上げ償還や、土地開発公社から用地買戻しを実施したことなどにより、5.3ポイント改善しました。

家計に例えると、「年収に対するローン残高など将来支払わなければならない額の割合」を示しています。



今後も徹底した改革に取り組み、健全な行財政運営を確立していきます。市の財政状況は、分かりやすく「見える化」して市ホームページ(QRコード)で公開しています。ぜひご覧ください。

